

平成23年度事業報告書

近年における少子高齢社会の伸展は、社会保障費の増大を招き、これを抑制するため介護保険給付費や障害サービス費用の単価切り下げ等をせざるを得ず、福祉を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いています。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から一年がたちましたが復興に向けて、難題が山積しています。原発の稼働、原発に代わるエネルギー、放射能汚染の対策等国を挙げ、地域を挙げ、今後の日本の在り方、地方自治他の在り方までが問われるような状況です。

このような社会状況にあって、福祉の充実を図りさまざまな人たちが共に支え合い助け合いながら、援助を必要とする人と共に生きる地域社会の実現を目指して、各種の福祉施策を推進していくことが強く求められています。

このため、社会福祉協議会は、地域社会福祉活動の推進や在宅サービス等の活動をはじめ、藤岡市はもとより関係機関や団体等との緊密な連携を図りながら、以下の事業を実施いたしました。

1. 会員の状況

- ・普通会員数 19,677世帯 (昨年比 +121)
- ・賛助会員数 328世帯 (昨年比 △29)
- ・特別賛助会費納入者数 336社 (昨年比 △1)

2. 会議開催状況

- ・理事会 5回
- ・評議員会 3回
- ・監査会 1回
- ・広報委員会 3回

3. 広報活動

年3回発行する「社協だより」と共に、市広報に掲載を依頼して福祉事業のピーアールに努めました。

4. 指導・育成

(1) 役員の研修については会議等を通して資質や知識の向上に努めました。

ボランティアについても資質の向上とグループ間の交流を深めるため、各種講習会、研修会等を開催して、指導、育成に努めました。

(2) ボランティア養成講座を開催して、その育成に努めました。

◇手話通訳奉仕者養成講座 53日（入門・基礎） 延べ 388人参加（修了証:入門10人 基礎講座5人）

◇点訳奉仕者養成講座 3日 延べ 6人参加

5. 地域福祉活動 心配ごと相談や結婚相談を定期的で開催して、社会不安の解消や結婚活動の相談等に努めました。

事業名	開催日数	相談件数	紹介件数	成立件数
心配ごと相談事業	49日	168件		
結婚相談事業	36日	669件	38件	0件

*結婚相談では、1組のカップルが成立し入籍に至りました。

6. ボランティアセンター

市民の善意に基づく金品の寄付を受けて、長期入院・入所者に慰問品を贈呈して地域福祉の増進に努めました。

◇一般寄付 25件 1,844,169円

◇愛の募金 1件 10,634円

◇物 品 30件 1,835点

7. 福祉関係団体助成

福祉関係団体等との連携を図って活動の推進に努めると共に、区長会、民児協、連合婦人会、身障連、子ども会育成会、保育部会に助成を行いました。

8. 老人給食

65歳以上の市内に子のいないひとり暮らしの老人52名に対して、ボランティアによる毎月4回の無料の老人給食サービスを実施しました。なお、9月より鬼石地区でも新たに開始しました。

給食サービスの日数	45日	延べ給食数	1,993食
-----------	-----	-------	--------

9. 在宅介護サービス

(1) 介護保険サービス

◇栗 須

- | | | | |
|-------------------|------|----|-----------------|
| ・ 居宅介護支援（ケアマネジャー） | 239日 | 延べ | 2,181人作成（ケアプラン） |
| ・ 訪問介護（ホームヘルパー） | 258日 | 延べ | 6,107回訪問 |
| ・ 通所介護（デイサービス） | 303日 | 延べ | 6,654人利用 |

◇鬼 石

- | | | | |
|----------------|------|----|----------|
| ・ 通所介護（デイサービス） | 253日 | 延べ | 3,362人利用 |
|----------------|------|----|----------|

(2) 介護保険外サービス

- | | | | |
|------------------|------|----|----------|
| ・ 在宅介護支援センター（栗須） | 366日 | 延べ | 801回訪問 |
| ・ 在宅介護支援センター（鬼石） | 366日 | 延べ | 1,020回訪問 |
| ・ 訪問介護(ホームヘルパー) | 259日 | 延べ | 1,125回訪問 |
| ・ 通所介護(デイサービス) | 303日 | 延べ | 141人通所 |
| ・ 介護タクシー | 239日 | 延べ | 2,293回稼働 |

10. 高齢者自立センター事業及び日常生活自立支援事業

◇高齢者自立センター藤岡 介護認定審査の結果、非該当者で介護予防が必要と認められた高齢者を対象に事業を推進しました。

・デイサービス事業	197日	延利用者数	1,847人
・ホームヘルプ事業	244日	延利用者数	449人
・機能回復訓練	50日	延利用者数	82人
・転倒骨折予防	47日	延利用者数	373人
・介護教室	3日	延利用者数	9人

◇高齢者自立センター鬼石 介護認定審査の非該当者で介護予防が必要と認められた高齢者を対象に事業を推進しました。

・デイサービス事業	188日	延利用者数	857人
・ホームヘルプ事業	143日	延利用者数	243人
・転倒骨折予防	47日	延利用者数	185人

◇日常生活自立支援事業 認知症高齢者、知的障害者、精神障害者など判断能力が不十分な方を支援するサービスです。

・相談件数	658件	契約件数	9件(認知8件 知的1件)	利用件数	31件
・登録支援員数	19人	稼働時間	738時間	(賃金	700円/時間)
・延べ利用者数	324人	賃金	700円/時間		

11. 栗須の郷並びにゆったり館運営事業 市民に浴場の利用やレクリエーションの場等を提供して、市民福祉の向上に努めました。

◇栗須の郷 開館日数298日 利用者数 76,328人(市内利用56,378人,74%)

◇ゆったり館 開館日 203日 利用者数 6,919人(65才以上の者5,166人 74.7%)

12. ミニデイサービス事業

概ね75歳以上の高齢者を対象に市内61会場でミニデイサービスを開催し、地域に暮らす高齢者の介護予防に努めました。
 ・年間利用者延べ数7,111人 述べ年間開催数725会場 会場数61ヶ所 利用料300円(月1回)

13. 学童保育所運営事業 仕事などの事情で昼間保護者がいない家庭の児童を預かる学童保育所の運営を市から受託して行いました。

◇平井・日野学童保育所 開館日数 297日 学童保育登録者数 47人 (夏休み期間中利用を含む)

14. 歳末助け合い運動 「みんなで支え合う温かい地域づくり」を目指して、毎戸100円以上の助け合い募金をお願いしました。

地区名	平成23年度 (円)	平成22年度 (円)	前年対比 (円)
藤岡	444,160	447,080	△2,920
神流	261,300	264,400	△3,100
小野	347,800	355,000	△7,200
美土里	259,200	256,427	2,773
美九里	162,000	162,100	△100
平井	126,000	125,400	600
日野	61,000	62,800	△1,800
鬼石	240,362	228,815	11,547
合計	1,901,822	1,902,022	200

15. 各種援助活動 生活困窮者等の弱者を対象に相談支援や資金貸付を行い安定した生活が送れるよう制度の推進に努めました。

	貸付件数	相談件数
総合支援資金(離職者支援資金含む)	3	33
福祉費	1	29
緊急小口資金	9	61
教育支援資金	1	14
不動産担保型生活支援資金	0	0
要保護世帯向け不動産担保型生活支援資金	0	5
臨時特例つなぎ資金	0	4
特例緊急小口資金	2	11
合計	16	157

・藤岡市社協の独自制度

社協貸付制度による小口生活資金貸付	35	83
社協緊急時食料支援	0	0

(2) 災害見舞い(火災) 2件 20,000円(見舞金規程 全焼10,000円 半焼5,000円)
 (台風被害) 0件 0円

(3) 行路者救済 10件 3,000円(1件300円)

16. 老人福祉車の一部購入補助事業 高齢者の日常生活を支援するため、老人福祉車の購入に助成して老人福祉向上に努めました。
 補助台数 50台 金額250,000円

17. 介護慰労金受給者激励品贈呈事業 人数 48人

18. 収益事業

(1) 福祉バザーの開催

12月11日(日)市民ホールを会場に区長会、民生・児童委員協議会、連合婦人会、ボランティア連絡協議会と福祉バザーを行いました。

・バザーの提供物品数 4,197点 売上金額 844,150円

(2) 自動販売機清涼飲料売り上げ代

収 益 金 202,515円

19. 福祉教育推進事業

(1) 児童・生徒が体験学習の機会を通じて社会福祉への理解と関心を高め、日常生活場面での相互扶助、社会連帯が大切なことを認識させるため小・中学校を対象に福祉教育の推進を図りました。

・県及び市社協指定 群馬県立藤岡市中央高等学校 (期間 平成22年度より3ヶ年)

・県学童・生徒のボランティア活動普及事業の指定(地域指定福祉協力校モデル事業)

西中学校区 (期間 平成21年度より3ヶ年)

(2) 実習生の受け入れ 本市出身者を中心に受入に努めました。